

(総括評価表Ⅳ)

“百年の礎を築く”～「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略

**戦略11** 熊本都市圏の拠点性向上  
～将来の州都をめざします～

- ① 州都をめざした取組みの展開
- ② ハブ機能の強化

**戦略12** 悠久の宝の継承  
～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

- ① くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承
- ② くまもとの自然・景観の保全・継承

**戦略13** 環境を豊かに  
～環境意識と行動を高めていきます～

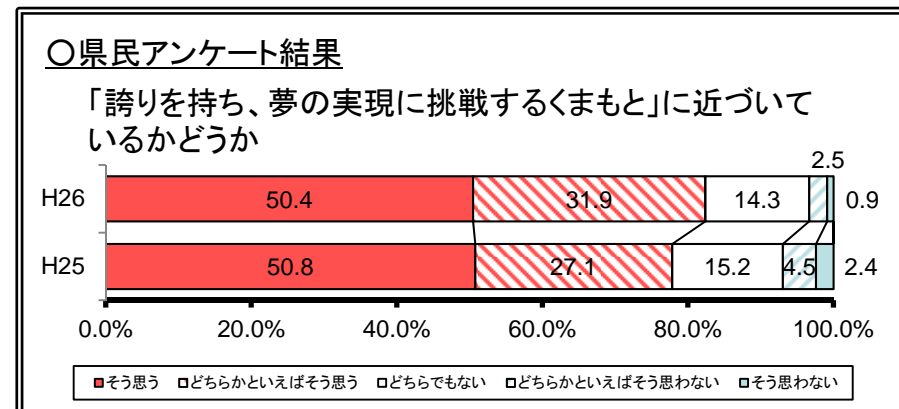
- ① 生活と自然の共生
- ② 県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践

**戦略14** 熊本アカデミズム  
～「知」の集積を「地」の力につなげます～

- ① 世界からの知の集積
- ② グローバルな人材の育成

**戦略15** 夢を叶える教育  
～次代を担う人材を育てます～

- ① 夢を育む教育の推進
- ② 夢を拓げる教育の展開



2 戦略指標の動向

※ 下表の「指標の動向」・「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標	↗	☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標	➡	★

指標	戦略策定時(年度)	H24実績値(H25評価)	H25実績値(H26評価)	単位	指標の動向(策定時との比較)	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略11	① 県・熊本市の政策連携協定数(熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	—	5	8	項目	➡	毎年度着実に増加を図る	累計	
	阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人/年(H23)	285	301	万人	➡	300万人/年	単年	★
	② 熊本駅の乗降客数	893万人/年(推計値)	920	973	万人	➡	920万人/年	単年	★
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	41.5%(H23)	41.5	43.1	%	➡	50.0%	単年	
戦略12	① 文化施設の利用者数	94.8万人/年(H23)	102.9	98.9	万人	➡	100万人/年	単年	
	② 世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	5か所(H23)	11	12	か所	↗	14か所	累計	
	③ 【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数	1万人/年(H23)	1.6	2.5	万人	➡	2万人/年	単年	★
	④ 【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数	3万人/年(H23)	4.3	3.9	万人	➡	4万人/年	単年	
	⑤ 熊本地域の地下水涵養増加量(白川中流域水田灌水事業等による涵養量)	2,065万㎡(H23)	1,675	1,931	万㎡	➡	3,600万㎡	単年	
	⑥ 【補】景観行政を行う市町村数	7市町村(H23)	7	9	市町村	↗	16市町村	累計	
	⑦ 【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数	2,137人/年(H22)	2,103	2,386	人	➡	3,137人/年	単年	
戦略13	① 有明海・八代海の水質基準の達成度(COD)	72.2%(H22)	72.2	72.2	%	➡	100%	単年	
	有明海・八代海の水質基準の達成度(全窒素・全リン)	83.3%(H22)	83.3	66.7	%	➡	100%	単年	
	一般廃棄物排出量	57万9千トン/年(H21)	55.7	56.5	万トン/年	➡	57万2千トン以下/年	単年	★
	② 【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数<再掲>	304会員(H23)	345	505	会員	↗	600会員	累計	
	【補】環境センターの来館者数及び出前講座の受講者数	157,372人/4年(H20～H23)	38,966	82,576	人	↗	164,000人/4年(H24～H27)	累計	
戦略14	① 研究開発部門の企業立地件数	9件/4年(H20～H23)	6	12	件	↗	10件/4年(H24～H27)	累計	☆
	海外高校への留学生数	10人/年(H23)	19	34	人	↗	100人/4年	累計	
	英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1～中3)の割合	46.9%(H23)	48.4	50.1	%	➡	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	★
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1～中3)の割合	46.4%(H23)	47.5	49.4	%	➡		単年	
	留学生の数<再掲>	575人/年(H23)	655	684	人	➡	1,000人以上/年	単年	
戦略15	① 教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合	77.8%(H23)	75.9	75.5	%	➡	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合	83.4%(H23)	82.4	82.8	%	➡		単年	
	【補】「親の学び」講座実施率	50.3%(H23)	62.0	66.0	%	➡	70%	単年	
② 海外高校への留学生数<再掲>	10人/年(H23)	19	34	人	↗	100人/4年	累計		
ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人/年(H23)	1,342	1,580	人	➡	1,700人/年	単年		

平成25年度の主な成果

今後の課題や方向性

3 平成25年度の主な成果・今後の課題や方向性

【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上～将来の州都をめざします～

「道州制シンポジウムin熊本」が開催され、道州制や州都に関する周知啓発を進めるとともに、新たな都市イメージ「学モン都市くまもと」の首都圏広報や「くまもと移住定住促進戦略」の策定を通じて、魅力を打ち出した。また、大空港構想を推進し、国際航空路線の拡充のほか、空港ライナーの利用者増、崇城大学と航空大学校との協力協定締結等の成果が上がった。熊本駅では、万日山の都市公園としての供用開始、在来線駅舎の上り線ホーム上屋の完成など、周辺を含めた整備が進展した。さらに、九州中央自動車道 嘉島JCT～小池高山IC間の供用開始、南九州西回り自動車道と国道57号4車線化の推進、中九州横断道路・滝室坂道路と熊本天草幹線道路・本渡道路の事業化決定などにより、九州におけるハブ機能の強化が図られた。

道州制や州都について、様々な機会を捉えた県民への周知啓発や丁寧な議論を進める必要がある。また、更なる拠点性の向上のための新たな都市戦略を検討し、具体的な取組につなげていく必要がある。大空港構想に関しては、相手国のインバウンド需要を見据えたPRや航空会社との協議により、継続して国際航空路線の拡充を進めるほか、パイロット養成施設としての機能強化などを推進していく。さらに、幹線道路整備については、予算の安定的な確保、計画的な用地取得、関係機関との連携・調整等により、着実に推進する。



〔道州制シンポジウムin熊本〕

【戦略12】悠久の宝の継承～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

歴史・文化の磨き上げについて、万田坑、三角西港を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産推薦が決定し、天草の崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」では次年度の国推薦に向けた準備が進んだ。また、鞠智城に関し、シンポジウムや研究論文の公募等を通じて知名度や歴史的価値の認知度の向上を進めた。さらに、県立図書館・近代文学館機能拡充整備基本計画、県総合博物館ネットワークの行動計画を策定し、知の拠点としての充実化や県民の知的欲求への対応を図った。自然・景観の保全・継承について、地下水採取許可制度の関係者への浸透、関係自治体による地下水保全の第二期行動計画策定等により、「水の国くまもと」づくりが進んだほか、「あそ草原再生ビジョン」に基づく170名の野焼きの支え手確保や、里モンプロジェクトによる89件の支援、約67haでのイエロープロジェクト等が進んだ。

「明治日本の産業革命遺産」では、関係自治体と連携した専門機関現地調査への適切な対応や、登録に向けた広域的な啓発、天草の崎津集落については、天草市と連携した資産・近隣区域の修景・景観整備や来訪者対策が必要となる。また、「熊本タイプ」の博物館の始動に向け、県内博物館等との連携を強化し、体制構築を進める必要がある。「水の国くまもと」づくりとして、地下水採取許可制度の周知徹底、関係機関連携による地下水涵養量の更なる確保や効果的な硝酸性窒素削減対策、「水の国くまもと」の情報発信等を進めていく。



〔三角西港〕

〔万田坑〕

【戦略13】環境を豊かに～環境意識と行動を高めていきます～

「水銀に関する水俣条約外交会議」に140カ国・地域の関係者1,000人以上が参加して同条約が採択されるとともに、国内外への情報発信を通して、水俣病問題や環境復元の取組みに対する認知度や理解が高まった。また、自然環境再生や景観向上に配慮した事業を推進する「みどりの創造プロジェクト」に新たに16カ所で着手したほか、南関町で公共関与最終処分場「エコアくまもと」の建設が開始された。さらに、廃棄物対策では、協定締結団体等との合同パトロール等、県民との協働による不法投棄撲滅の取組みが展開された。

「水銀フリー」社会をめざし、専門家の意見を踏まえた水銀の使用削減に向けたモデル的取組を推進する。加えて、国内外の環境問題への取組が進展するよう、水俣病の教訓等の情報を発信する。また、「エコアくまもと」を、全国のモデルとなる安全な施設、環境教育や地域防災の拠点となる施設として整備を進めるほか、不法投棄撲滅の取組みを強化していく。



〔エコアくまもと(完成イメージ)〕

【戦略14】熊本アカデミズム～「知」の集積を「地」の力につなげます～

6件の研究開発部門誘致、県立大学と国立水俣病総合研究センターとの連携大学院協定締結、5名の「くまもと未来会議」委員招へい等により、知の結集・集積を図った。また、大学コンソーシアム熊本等との連携による留学生支援ネットワークの拠点開設、官民出資の世界チャレンジ支援基金を活用した若手芸術家(7名)や高校生(15名)の海外派遣など、海外との交流促進に向けた仕組みづくりが進展した。さらに、本県独自の英語教材の活用等の効果から、英語が「好き」・「分かる」と回答した中学生の割合が何れも上昇した。

連携大学院をステップとした水俣市における知の集積と地域の活性化を推進する。また、「くまもと未来会議」の新たなテーマの選定や委員選任を進め、熊本の飛躍に更につなげる必要がある。海外へ挑戦する若者への支援として、世界チャレンジ支援基金の充当事業を新たな分野に広げること検討するほか、英語教育に関する指導力向上を進めていく。



〔世界チャレンジ支援基金を活用した海外派遣〕

【戦略15】夢を叶える教育～次代を担う人材を育てます～

夢を育む教育の推進に向け、いじめや不登校などの予防や解決に取り組むスクールソーシャルワーカー(SSW)やサポーターを各学校等に配置した。加えて、県内全域で「親の学び」講座を開催し、前年度比約10%増となる38,408人が参加した。また、ひとり親家庭等の子どもたちの環境づくりとして、100以上の「地域の寺子屋」の仕組みづくりや、107カ所の「応援の塾」の登録、23カ所の「地域の学習教室」の開所などが進んだ。さらに、海外進学を総合的に支援する体制として、新たに「熊本時習館海外チャレンジ塾」を開講し、5名が海外大学への進学予定となった。

SSWは、配置の拡充に対応する人材の確保と一層の能力向上を進める必要がある。「親の学び」講座では、県内全域での継続開催のため、市町村等との連携を通じ、プログラムの進行役の養成を進めていく。また、「地域の寺子屋」では、活動内容を充実化するボランティアの登録を増やす必要がある。さらに、グローバル人材育成の必要性の高まりを受け、海外進学の総合支援体制を更に充実させる必要がある。



〔地域の寺子屋〕